

ルリトウワタ(ブルースター)疫病の 土壌からの検出

甲把(安達)理恵*・森田泰彰・竹内繁治**

Detection of *Phytophthora palmivora*, Causal
Fungus of Phytophthora Blight of *Oxypetalum*
caeruleum from Soil Using Trap Method.

Rie GAPPA-ADACHI*, Yasuaki MORITA and
Shigeharu TAKEUCHI**

要 約

ルリトウワタ疫病菌(*Phytophthora palmivora*)を土壌から検出する方法を検討した。ルリトウワタ疫病菌の分離には、既報の選択培地であるPBNRH中のneomycin sulfate濃度を40ppmに改変した培地(以下、改変PBNRH培地)が適した。しかし、土壌から直接ルリトウワタ疫病菌を検出することは困難であったため、桂による捕捉法を改変したところ、ルリトウワタまたはリンゴ果肉片を用いて土壌からルリトウワタ疫病菌の捕捉を行い、改変PBNRH培地を用いてルリトウワタ疫病菌の分離を行うことで、ルリトウワタ疫病菌を選択的に検出することができた。

本法による疫病菌汚染土壌からの検出限界濃度は、土壌中の遊走子濃度が 1.0×10^2 個/g 程度であった。土壌中に *Pythium* 属菌が存在する場合、ルリトウワタを用いた捕捉は困難であったが、リンゴ果肉片を用いることで *Pythium* 属菌の混入を防ぐことができた。しかし、リンゴ果肉片はルリトウワタよりも疫病菌の捕捉率がやや劣った。また、本法により疫病菌が検出された土壌では、植え付けた苗に疫病の発生がみられたが、捕捉されなかった土壌に植え付けたルリトウワタには、植え付けから31日後まで疫病の発生が見られなかった。

以上のことから、本法によりルリトウワタ疫病の発生を予測することが可能で、圃場における疫病菌汚染状況の評価に利用できると考えられた。

キーワード ルリトウワタ, *Oxypetalum caeruleum*, 疫病, *Phytophthora palmivora*, 選択培地,
捕捉法